

日南町

日南町

連絡先：企画課 電話：0859-82-1115
ファクシミリ：0859-82-1478

<日南町の概要>

人口：5,460人
世帯数：2,099戸
高齢化率：46.8%
(平成22年国勢調査)



協議会：阿毘緑むらづくり協議会、石見まちづくり協議会、大宮まちづくり協議会、多里まちづくり推進協議会、日野上まちづくり協議会、福栄まちづくり協議会、山上まちづくりの会

【まちづくり協議会設立の背景と経緯】

日南町における広域的な地域組織の取組は、少子高齢化の進展や自治会機能の低下、また生活様式の多様化に伴う課題の増加を背景として、平成14年度、各自治会から推薦された住民を対象に「まちづくりリーダー塾」を開催したことから始まった。

平成14年度	・まちづくりリーダー塾の開催
平成15年度	・地域担当職員制度の運用開始
平成16年度	・「自立のための行財政改革基本方針」を策定し、自治会を超えた新たな自治組織の設立を提案
平成17年度	・まちづくり協議会（以下、まち協）を2つのモデル地区に設定
平成18年度	・旧中学校区を単位とした町内全7地域にまち協を設置 ・公民館を廃止し、代わりにまち協の拠点として地域振興センターを設置 ・専任の嘱託職員(事務長)を配置 ・一括交付金制度の創設
平成21年度	・役場企画課に地域づくりアドバイザー配置
平成22年度	・まち協ごとに「5か年計画」策定
平成23年度	・集落支援員を5地域に配置
平成24年度	・集落支援員を全7地域に配置
平成25年度	・まち協全体での取り組み開始

【これまでの成果】

まちづくり協議会が設置された結果、次のような成果が得られた。

- ・それまでの自治会活動ではあまり見られなかった地域の伝統芸能の保存、歴史の発掘、観光振興といった新しい活動が行われるようになった。
- ・自治会ごとに実施していたスポーツ大会等の活動を広域的に実施することにより、それらの活動を継続して実施できる体制が出来上がった。
- ・コミュニティビジネスに取り組むことにより、収益がまち協の活動資金になるとともに、住民の生きがいや収入につながるようになった。
- ・農産物や加工食品などの特産品を販売する「にちなん食のバザール」が日南町をあげてスタートし、人気イベントとして成長しつつある中、まち協の参画も増えてきている。



延べ訪問客が4万人を突破した「にちなん食のバザール」

【課題と展望】

現在、各まち協では様々な活動が行われているが、今後はそれらをつないでいく仕組み作りが必要である。また、まち協の必要性やまち協と自治会の役割の違いを住民が十分に理解するための努力は、今も続けられている。さらに、高齢者の安心安全な暮らしの確保は迅速に取り組むべき課題である。

一方、現在のまち協の活動は役員など少数の人に負担が偏っている面があり、役員の高齢化が進んでいることと併せ、若い世代を活動に巻き込み、後継者を育成することが重要である。

取組に至る背景・経緯・目的

- ・多里地域では従来、各自治会ごとに存在する自衛消防団が自治会長の指揮の下に活動を行ってきた。しかし、地域の高齢化が進み、自衛消防団員の年齢層も上がり、団員数の減少により活動ができにくい状況が生まれてきた。すなわち、自治会単独ではなく、地域内すべての自治会の自衛消防団が協力して対応できる体制づくりが急務となった。
- ・そこで自治会の枠を超え、地域全体の安心安全を目指して活動することを目的として、協議会の中に地域防災対策委員会が組織された。委員会は、協議会会長・副会長2名・自治会長5名・自衛消防団長5名・日南町消防団多里分団長の計14名で構成されている。



▲ 平成 25 年の台風 12 号による被害



▲ 多里地域全体の水防訓練



▲ 日南町総合防災訓練



▲ 「多里子ども見守り隊」も発足

◆ 活動写真 ◆

取組に工夫・苦労した点

- ・活動を重ねるうちに災害時における地域サポートの大切さに気づき、住民聞き取りによる要サポート世帯の一覧表とサポートマップを製作。訓練時にひと声かけながら回ることができた。
- ・防災対策委員会内に救護班と広報・サポート班を設置。災害時には本部に3名の救護員が待機するようにした。
- ・また、防災対策委員会の活動とは別に、小中学生の登下校時の安全を見守ることを目的として保護者や地域住民による「多里子ども見守り隊」を結成。子どもたちに安心安全を届ける活動を始めた。

取組の成果

- ・町主催の総合防災訓練は従来から実施されていたが、地域防災対策委員会設立以後は訓練に向けて事前に検討を重ねることにより、参加から参画へと意識が変わってきた。
- ・また、総合防災訓練終了後、地域内の各自衛消防団が連携してホース連結訓練を行ったり、女性・高齢者対象の放水訓練や心肺蘇生訓練を行うなど、自主性が強まってきた。
- ・さらに、実際の行方不明者捜索の際には対策本部を立ち上げ、各自治会と各自衛消防団が警察・役場等と協力して捜索活動を行うなど、地域全体としての防災対策の組織化が確立されつつある。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・今後は、自衛消防団同士のつながりをさらに深くしていき、自治会を超えて助け合っているよう位置づけていきたい。
- ・少子高齢化の時代の中で、地域維持に向けて従来の取組と新しい取組がうまく融合できる組織作りを目指したい。

日野

日南町

福栄まちづくり協議会

<団体概要>(平成26年9月現在)
 住所 〒689-5671
 日野郡日南町福塚992番地
 福栄地域振興センター内
 設立 平成18年4月
 代表者 会長 福田 憲一
 構成員 全住民
 役員 27名
 自治会長 4名
 集落数 13集落
 電話 0859-83-0454 FAX 0859-83-0454

<参考>福栄地区の概要(平成22年国勢調査)
 ・人口 569人 ・世帯数 193戸
 ・高齢化率 41.3%



▲ 福栄地域振興センター



福田 憲一 会長

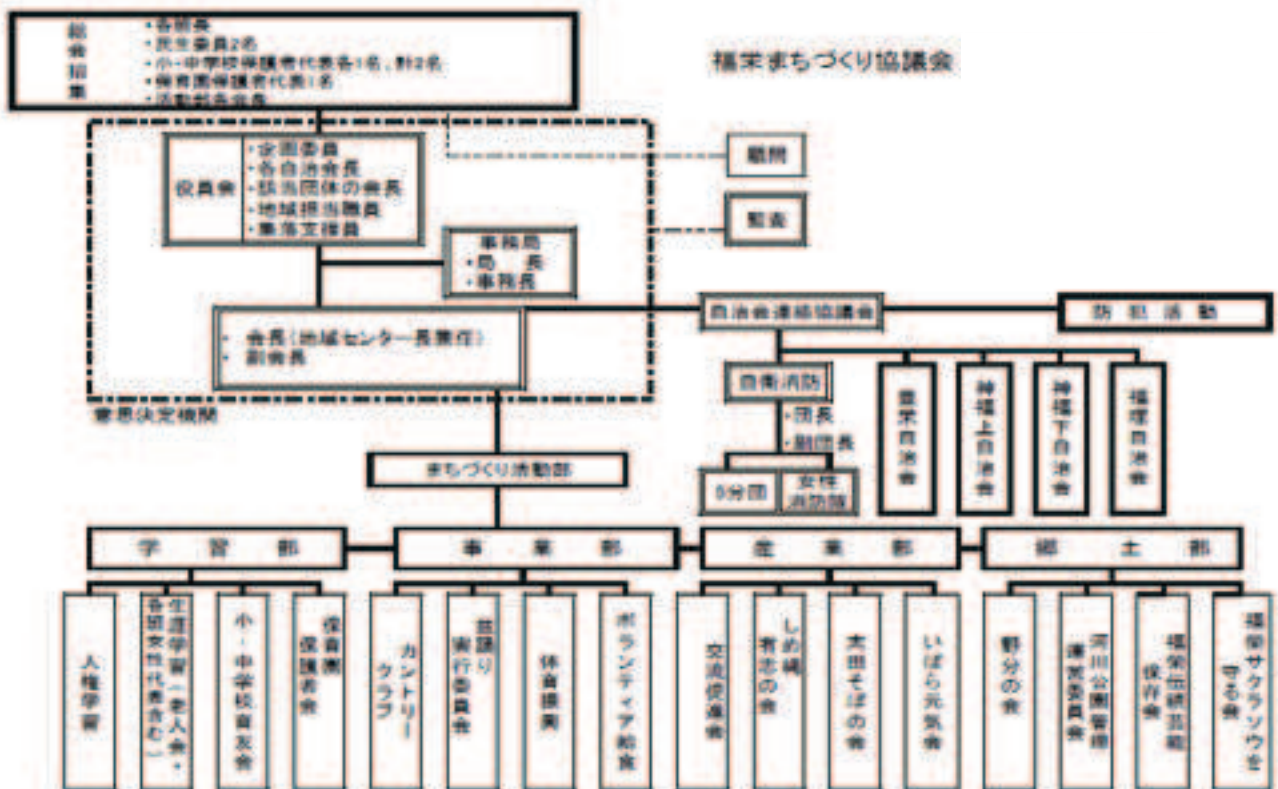
◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

福栄では早くから観光ボランティアガイドを独自に養成するなど、観光開発に力を入れてきました。今年度は「支え愛ネットワーク事業」にも着手しますが、これもこれまでの活動が地域に活力を生み始めた成果だと思っています。

主な取組の概要

- ・観光に重点を置き、地域に眠っている観光資源を掘り起こして特産品を企画・製作し、販売に結びつけている。
- ・観光ポイントとして福栄神社、井上靖記念館、屋号看板、『日本昔話100選』に出てくる虫まつり峠、サクラソウ自生地などの管理・保護を行っている。
- ・このように地域の観光開発に寄与するとともに、活動を通じて住民の誇りの喚起に努めている。

◆ 組織図 ◆



◆ 活動写真 ◆



▲ 毎年秋開催の福栄ウォーキング



▲ 福栄神社



▲ 井上靖記念館



▲ サクラソウ



▲ 観光マップ

◆ 刊行物 ◆

取組に至る背景・経緯・目的

- ・目立った特産品も観光スポットもない、ただ静かなだけの田舎のイメージを一新しようと、福栄独自で資源の掘り起こしを始めた。ちょうどその頃、福栄まちづくり協議会が発足して地域の横のつながりが深まり、活動がしやすくなった。
- ・地域には福栄神社、豊栄、福塚、神福などの幸運を願う地名や、絶滅危惧種のサクラソウ、井上靖ゆかりの地、『日本昔話 100 選』に出てくる虫まつり峠の伝説などがあり、観光開発のヒントとすることができた。

取組に工夫・苦労した点

- ・町外の人に福栄という地域を知ってもらうために、観光にポイントを絞ったマップを作製した。
- ・地域ぐるみでおもてなしをするにはガイドが必要だと感じ、神社の官司に聴講したり、井上靖の出身地に出かけたりして勉強し、5人のボランティアガイドを誕生させた。
- ・『にちなん食のバザール』に出店して住民が開発した新メニューの食品を販売するなど、福栄のPRをしている。

取組の成果

- ・活動を通して人間関係の輪が広がった。
- ・地域内に活動家が在住して動いていることによって、これまで何も起こらなかった地域に町外からマイカーや観光バスが入って来るなどの変化が起きている。
- ・また、住民の中から自主的な協力者が少しずつ現れるようになり、人と人が良い感じで連携が取れるようになった。
- ・ひとつの事業が、次の事業につなげようという意欲に結び付くようになった。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・ボランティアガイドを育成し、地域ぐるみで住民誰もが笑顔でおもてなしができるようにしたい。
- ・観光資源と合わせて、地元の食材を活かし、特産品の開発を行っていく。
- ・空き家等を利用して、町内外からの移住者が住みやすい環境を整え、温かく元気な地域の発展を目指す。

日野

日南町

山上まちづくりの会

<団体概要> (平成 26 年 9 月現在)

住所 〒689-5543
 日野郡日南町笠木 304 番地
 山上地域振興センター内

設立 平成 17 年 7 月

代表者 会長 坪倉 幸徳

構成員 全住民
 役員 19 名
 自治会長 5 名

集落数 20 集落

電話 0859-82-0933 FAX 0859-82-0933



▲ 山上地域振興センター

<参考> 山上地区の概要 (平成 22 年国勢調査)

- ・人口 624 人
- ・世帯数 250 戸
- ・高齢化率 46.8%



坪倉 幸徳会長

◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

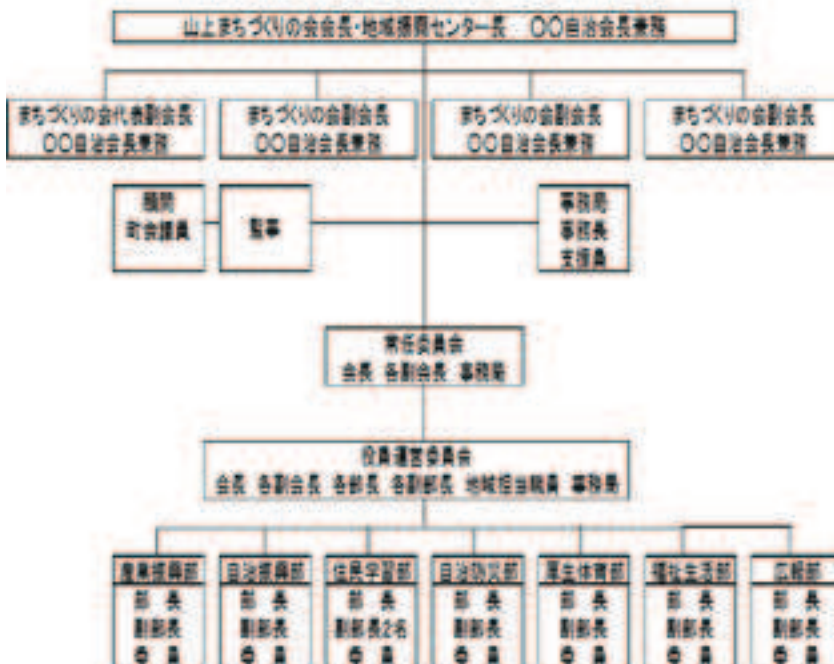
当会では自然保護活動に力を入れており、特にヒメボタル保護に注力して取り組んでいます。町内外のたくさんの人たちに観賞していただき、地域の活性化につながればと思っています。毎年 7 月 1 日から 15 日がピークです。ゲンジボタルとヒメボタルの乱舞はとても美しいですよ!!

主な取組の概要

- ・①協議会全体の事業：盆踊り・文化祭・I ターン定住者との交流会 ②産業振興部：こんにゃく栽培・加工・販売 ③自治振興部：ヒメボタル保護活動 ④住民学習部：寺子屋キッズ・寺子屋二本松 ⑤自治防災部：防災訓練 ⑥厚生体育部：校区対抗球技大会・大草山登山イベント等 ⑦福祉生活部：独居高齢者世帯の見守り活動 ⑧広報部：広報誌『大草山だより』発行、など
- ・ここでは特にヒメボタル保護活動を重点事業として紹介する。

◆ 組織図 ◆

山上まちづくりの会組織図



◆ 刊行物 ◆



▲ ヒメボタルのパムフレット

◆ 活動写真 ◆



▲ ヒメボタルが舞う夜の森 (撮影：相見幹彦氏)



▲ ヒメボタル生息地で草刈りボランティア



▲ 住民による交通整理



▲ キャラクターの福ひかる君と万木あかりちゃん

取組に至る背景・経緯・目的

- ・平成16年にヒメボタルの生息を確認。
- ・以来、『ホタルは環境のバロメーター』を合言葉に保護活動を展開。
- ・保護活動を通して、地域みなさんにヒメボタルを地域の宝、誇りとして認識してもらうとともに、自然環境の大切さ、素晴らしさ、偉大さ、神秘性を訴えている。

取組に工夫・苦労した点

- ・観賞者にマナーを守ってもらうため、チラシの配布や声かけを続けている。
- ・ホタル保護活動のボランティア人員の確保に苦労したが、地元の自治会活動と連携することで確保できるようになった。

取組の成果

- ・自治振興部によるヒメボタルの保護活動や情報発信などの活動が、他の各部の活動と連携して行われるようになり、協議会全体としての事業成果が上がりつつある。
- ・平成25年9月にはNHKテレビ『さわやか自然百景』にヒメボタルが取上げられるなど、地域の活動が広く知られるようになった。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・ホタルに限らず里山の小動物が減ってきているので、みんなで勉強を行い、本来の自然の姿を取り戻せるように努めていきたい。
- ・ヒメボタルの保護活動のほかに、子どもたちと一緒に取り組める活動として、ゲンジボタルの餌である川ニナの放流を行っていきたい。



▲ ひかる君とあかりちゃんのホタル飴